

期日：平成27年7月28日（金）

開会：午後3時20分

閉会：午後5時10分

場所：上天草市役所大矢野庁舎2階庁議室

---

## 1. 会議次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 構成員自己紹介
- 4 協議事項（1）上天草市教育大綱について  
（2）教育を行うための諸条件の整備、教育等に関する重点的施策について
- 5 閉会

## 2. 出席者

市長：堀江隆臣

教育委員：永野隆一、山下勝一、古川佐奈江、田中久美子、藤本敏明（教育長）

## 3. 事務のため出席した職員

舛本伸弘（教育部長）、宇藤竜一（学務課長）、井上和男（社会教育課長）、前方正広（学務課長補佐）、中田光治（社会教育課長補佐）

## 4. 会議の内容

以下のとおり

---

### 1 開会

○教育部長（舛本伸弘君） それでは定刻を過ぎましたが、ただいまから、平成27年度第1回上天草市総合教育会議を開会いたします。

それでは、座長であります堀江市長からご挨拶をお願いいたします。

### 2 市長挨拶

○市長（堀江隆臣君） みなさんこんにちは。本日はお忙しい中に第1回の上天草市総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、教育委員の皆様には日頃から上天草市の教育行政の推進につきまして、格別のご理解とご協力を頂いておりますことに対してあらためてお礼申し上げます。

さて、地方教育行政法の改正に伴い、平成27年度から教育委員会制度について、大きく改正された点がございます。もう既に教育委員のみなさまはご承知かと思いますが、ひとつ目は、本日開催の総合教育会議を首長が設置し開催するということとございます。二つ目は、首長が総合教育会議の中で協議調整を行い、教育に関する大綱を策定するという事になったということになります。この件につきましては、議題となっておりますので、後で協議をお願いしたいと思います。そして三つ目が、従来の教育委員長と教育長を一本化した、新たな教育長制度

が始まったということでございます。本市におきましては、法律の附則において、旧教育長においては教育委員会の委員としての任期中に限り、なお従前の例により在籍するものとするとの事から、藤本教育長に引き続き教育長をお願いしているところでございます。

本法の改正趣旨は、教育長の権限を強化し、教育行政の責任体制の明確化と並んで、市長は総合教育会議を通じて連帯して教育行政に責任を負う仕組みが整ったということになると思うのですが、分かりやすく言いますと、行政のトップである首長が、教育行政にもっと関わりなさいということと、そして総合教育会議を設けて、教育委員会と連携して教育方針を作っていくなさいということだろうと思いますので、今日はこの後協議事項もございますので、この会議が総合教育会議として大変有意義な会議になればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。簡単ではございますが、挨拶にかえさせていただきます。

### 3 構成員自己紹介

- 教育部長（舛本伸弘君）** 続きまして各委員さんに自己紹介をお願いしたいと思いますので、永野教育委員長から山下職務代理、古川委員、田中委員さんといきまして、最後に藤本教育長をお願いいたします。
- 教育委員（永野隆一君）** 永野でございます。松島出身でございます。私は学生時代からちょっと東京におりまして、50年くらいいまして、民間会社を定年退職してこちらに来て10年近くになります。長い間民間におりましたので、教育行政については多少疎い存在でございまして、もう子育て時代もとっくに終わりましたけど、一般の市民の健全な市民感覚がどういふものかと模索しながら教育委員会をすすめたいと思っておりますのでどうぞよろしく願ひいたします。
- 教育委員（山下勝一君）** こんにちは。姫戸の山下といいます。私はまだ1年半くらいになりますけれども、前花田委員の後を継いで姫戸の方から教育委員を拝命したところでございます。教育についてはPTA関係を3年ほど務めさせていただいて、あと姫戸ではその他にも青年団長とかをやってきましたが、教育についてはまだ非常に難しい部分もありまして、自分の子供もなかなか教育できないというところもあってなかなか引け目を感じているところでございまして、一生懸命、市の教育行政に少しでも役に立てればと思っております。今日はよろしく願ひいたします。
- 教育委員（古川佐奈江君）** 2期目5年目を迎えました登立の古川佐奈江と申します。2期目を迎えましたけれども、初心を忘れず公正に偏見を持たず、私は保護者枠として入っておりますので、子供たちにとって何が一番いいのか、子供たちの目線を忘れることなく取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしく願ひいたします。
- 教育委員（田中久美子君）** 龍ヶ岳町高戸の田中久美子です。7月で2年目に入りました。1年間をとおしまして、色々勉強することがたくさんあって、教育というのは本当に幅広いものだなと感じております。上天草市の子供たちの将来に関わることで、私が何か力になれる事があれば一生懸命頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしく願ひいたします。
- 教育長（藤本敏明君）** 藤本敏明でございます。2年が終わり3年目になっているところでございます。頭の中には、いつも子供たちの学力をどうしようか、先生たちの養成をどうしようかとか、頭はいっぱいでございます。2年が終わりまして、私が教育長になったころは大矢野中学校も大変な時期でございましたけれども、今度の中体連でもソフトボールが優勝し、ソフトテニスベスト4に入るなど、議会の中で3年間でどうにかしますと言っておりハラハラしておりましたけれども、どうにか達成できたようです。これから先、市全体のことで頑張っていかなければならないと思っておりますので、何卒よろしく願ひいたします。

#### 4 協議事項（１）上天草市教育大綱について

- 教育部長（舩本伸弘君） ありがとうございます。それでは協議事項に入らせていただきます。ここからは、座長であります市長に進行をお願いしたいと思います。
- 市長（堀江隆臣君） それでは、早速ではございますが、協議事項に入りたいと思います。まず協議事項１、上天草市教育大綱についてを議題といたします。この議題については事務局から説明をお願いいたします。
- 学務課長（宇藤竜一君） 協議事項１の上天草市教育大綱についてご説明をいたします。まず、大綱を市長が定めることとする趣旨ですが、文部科学省の通知では、予算権限や条例提案権を持つ首長が大綱を定めることにより、福祉や地域振興などの一般行政と密接に連携させながら当該地方公共団体の教育、学術、及び文化の振興に関する施策の総合的な推進を図るとなっております。また、大綱の策定にあたって、教育振興基本計画を策定している自治体においては、首長が、総合教育会議において教育委員会と協議、調整し、当該計画を持って大綱に代えることができるとされているところです。お手元の、本市の教育振興基本計画について、概要を少し説明させていただきますので１ページをお開きください。本市の教育振興基本計画は、上天草市総合計画、平成１６年度から平成２５年度を踏まえた、平成２３年度から平成２７年度までの理念的、骨格的な計画であり、平成２７年度中に第２次上天草市教育振興基本計画を策定する予定でございます。第２次の策定期間は平成２８年度から平成３２年度の５年間と考えております。第２次教育振興基本計画では、計画期間の途中であっても、計画の進捗状況、社会情勢の変化を受けて柔軟に見直しを行うことが適当と考えているところです。それでは２ページのイメージ図をご覧ください。生きる力と上天草を愛する心を持ったひとづくりを基本理念と定めております。施策といたしまして、学校教育の充実を図るため、一つに豊かな心の育成。二つに確かな学力の育成。三つ目に健康で安全な生活のできる資質や能力の育成。四つ目に質の高い学校教育の推進。社会教育関係で五つ目に社会教育の充実。六つ目に地域文化の振興。最後にスポーツ文化の振興の７つを掲げ、学校、家庭、地域、行政が一体となって、子供たちに生きる力と上天草を愛する心をはぐくむとしました。次に３ページをお願いします。生きる力を持ったひととはどのような人を目指すか、また、上天草を愛する心を持ったひとをどのように育てるかを記載してあります。４ページをご覧ください。施策の展開でございます。学校教育の充実として、豊かな心の育成、規範意識をもったすこやかな心の育成についてですが、児童生徒ひとりひとりが、公共の精神や社会規範との関連において自己実現を図れるように努めるとしてあります。５ページになります。楽しく登校できる学校づくりについてですが、いじめ根絶に向けて、実態把握に努めいじめの未然防止や早期発見、早期対応のための取組を継続的に進めます。また、不登校児童生徒の学校復帰に向けた取り組みの充実と不登校につながる取り組みや早期対応に努めてまいります。６ページになります。確かな学力の育成、基礎、基本的な知識、技術の習得と思考力、判断力、表現力の育成について。学習意欲の向上や既習事項の定着を図りながら、確かな学力の育成を目指します。次に７ページになります。特別支援教育の推進についてです。児童生徒が抱える様々な障がいに対して、的確かつ具体的な支援を進めてまいります。８ページになります。健康で安全な生活のできる資質や能力の育成について。学校体育、学校保健安全の充実について、児童生徒の体力の向上や健康な生活を送る資質や能力、実践力の育成を行います。９ページの食育の充実です。児童生徒が望ましい食習慣を基本とする生活ができるよう取り組みます。１０ページの、質の高い学校教育の推進。教職員の資質の向上について、研修や会議等を通じて教職員の資質の向上を目指します。１１ページ。教

育環境の整備充実についてです。学校における情報化を進めるとともに、安全で快適な教育環境づくりに取り組みます。12ページ、家庭、学校の協力体制の充実について、地域や保護者、児童生徒の信頼と期待に応えるために、特色ある学校づくりに努めてまいります。13ページ、社会教育の充実と地域文化、スポーツ文化の推進として、社会教育の充実について、地域それぞれに合わせて、住民が主体的に考え、地域の課題を認識し、協働し解決していくことを促す仕組みづくりを進めるために、家庭、学校、地域が連携し合うための取り組みを支援し、社会全体の教育力向上を図ります。16ページの地域文化の振興についてです。社会情勢の変化や市民ニーズを踏まえ、今後の文化振興の推進を図るために、自主的な文化芸術活動の場の充実や文化芸術活動環境の整備、充実など、文化芸術活動を通じた豊かな市民生活の実現を進めます。また、市民が主導する市民のための文化創造のまちづくりを進めます。文化財資料等の適正な保存、継承を行いながら、文化資源を活かした活力と特色のあるまちづくりの推進を図ります。次にスポーツ文化の振興についてです。すべての人に合わせたスポーツ振興を図るために、市役所の関係部署及び上天草市体育協会、地域総合型スポーツクラブ、上天草スポーツクラブドリームズ、アロマと連携し、個人のライフスタイルに合わせた、スポーツとのかかわりができるような体制づくりを進めます。19ページに役割と協同として、家庭、学校、地域、行政の期待する役割や責務を記載しております。最後に本計画を効果的に推進するため、毎年PDCAサイクルを回して計画の進捗状況の点検を行いながら確実な推進を進めることとしています。以上が教育振興基本計画の概要でございます。よろしくお願いいたします。

○市長（堀江隆臣君） ただいま事務局から教育振興基本計画の説明がありましたが、何かご質問ご意見等はございませんでしょうか。

○教育長（藤本敏明君） この上天草市教育振興基本計画を大綱に代えていいかということですが、それは市長はいかがでしょうか。

○市長（堀江隆臣君） そうですね。課長からも話があったんですが、大綱の策定につきましては、この総合教育会議で協議調整を尽した上で策定しなさいとなっているようですが、いつまでに作れとか、どんな形で大綱を作れとか、そこまでの制限は設けてありません。それで、今説明していただいたものが平成27年度までの計画ですので、28年度からについてはまた新たに作るということになっています。それで、教育振興基本計画を作りながらそれを大綱に代えてもいいというような通達も出ていますので、今ここで大綱をどうということではなくて、来年の教育振興基本計画の策定にあたりながらそれを大綱の基本的な骨格にしていければという気持ちでおりますがいかがでしょうか。内容についてはこの後の協議事項にもありますので、このあたりで少しフランクに教育委員の方々と意見交換をさせていただいてそこを大綱には盛り込んでいきたいというふうに考えておりますのでよろしくお願いいたします。

○教育委員（古川佐奈江君） 大綱の要件を満たした基本計画、言い換えれば、大綱の要件を踏まえて、教育振興基本計画を計画していけば置き換えるという形でいいのではないかと考えております。これを見ながら、ちょうど2、3日前に、虹色ジーンという全国放送で上天草市が放送されていたのを思い出しました。朝なんですけどご覧になられたでしょうか。そこで郷土料理なんですけど、ぶえん寿司が紹介されていたんですが、私はそのぶえん寿司を知らなくて、阿村の学校訪問に行った時に子供たちが郷土料理ということで、色々な地域のことを調べていたんですけども、ここに食のところがあるので、食のところに郷土料理というところでもそういう言葉を載せてもいいんじゃないかなと思った次第です。

それとあと一つ、この基本計画のイメージ。2ページ目なんですけれども、花を形に例えて、地域、家庭、学校、行政を反映してあるんですけれども、花はどんな花でも根が張っていないと育たないんです。切り花でも花は咲きますけれども、その花が咲いたら終わりで、種を残したり、風が吹いたり嵐が来ても倒れないというのは、その根っこがしっかりしているからというのがあると思うんです。私はおかげさまという言葉のように、陰の部分をお忘れない心、見えないところを感じようとする心が本当に豊かな心ではないかなと思うんです。その豊かな心が生きる力に繋がるのではないかなと日頃考えております。それで、この根っこになるところは何かと思ったときに、やっぱり、家庭、学校、行政、地域というのは根っこになるんじゃないかなと。それで、その根っことして支える家庭や地域があつて、子供たちが葉を出すように、色々な体験をとおして、ここに確かな学力とありますけれども、これは葉の部分になるのじゃないかなとちょっと感じたところでした。いかがでしょうか。

- 市長（堀江隆臣君） この2ページの図で行くと、いわゆる地域とか家庭とか学校が根であるべきということですね。
- 教育委員（古川佐奈江君） 根がなかったので、根になる部分は何かと考えたんです。何が子供の生きる力、故郷を愛する心というのを一番支える根っことなるもの、ゆらがないものは何かと考えたのですが、市長は根っこには何かがあると思いますか。
- 市長（堀江隆臣君） やっぱり私も大きな意味で社会環境だと思います。ですから地域であったり、学校であったり、そういったものが植物に例える部分があるとすればそういったところかなと思います。だから何となくイメージがわかります。おそらくこれは葉っぱをイメージしてあるのでしょうかから、たぶん光合成が何かでエネルギーを作るイメージで作られたのかもしれませんが。そういったところは教育委員会の事務局の方でもある程度イメージして考えてくれると思います。
- 教育委員（永野隆一君） だいたいこの図で言えば、葉っぱのイメージかもしれませんが、例えば地域、行政というのはそれが根っこではないんですか。
- 教育委員（古川佐奈江君） はい。私はこれが根っこではないかなと思ったんです。
- 教育委員（山下勝一君） 実は私もこれを読んだ時感じたところで、7つが葉っぱになって、生きる力、上天草を愛する心というのが花なんだろうと、イメージは私も同じような感じを受けたので今の意見はよくわかります。
- 市長（堀江隆臣君） 他には何かご意見等はございませんでしょうか。
- 教育長（藤本敏明君） これは、何年前かに作ったときの人の感覚なんですね。総合教育会議が当時なかったので、そういうところのイメージとか考えというのはやっぱり無かったんでしょうね。だからそういう意味ではこの会議というのは非常に意義あるものだなと思います。それで、今日言われたことに対しましては、事務局が控えておりますので、今度作るときにその辺も加味して作っていくと思います。
- 市長（堀江隆臣君） 思うんですけど、地域とどういふふうに関係を環境を作り上げるかというのは大変大きな問題だと思うんですよ。時代がずいぶん変わって、学校だけではなかなか対処できない部分があつたりするじゃないですか。そういったところをカバーできるのがどこかなとなった時に、一つはこういう総合会議を作れということなので、行政がもっと関わって色々な事をやれと言っているんでしょうが、もうひとつはやっぱり地域の方々に、学校で賄えない部分のどういったところをやってもらえるかというのがひとつの大きな今後の考え方かなと思うんです。その辺を明確に大綱なり教育振興基本計画なりに謳えればというのは多少あります。社会に出て行くために訓練する場所が学校だとするならば、社会に出ても強く生きて行って

くれる子供になってほしいと思いますし、願わくばそういう子供が将来この地域に貢献できるような子供に育ててほしいというそういった考え方も少し唱えてもいいんじゃないかなと思っています。そういった意味では地域とか政策論が図でどの辺にあるかというのは少し考えて協議できるようにしたいです。

○教育委員（永野隆一君） 今市長がおっしゃった、教育と地域との関わり合いをどうするかということをもうちよつと議論して整理しなくてはと思いますね。もうちよつと道筋を明確にやった方がいいかなと思います。実態を言いまして、保護者会、PTAはありますけれども、みなさん子育て世代で、実際はほとんど学校の何かに参加することはできないですね。特別な行事は別ですが。それは地域によってずいぶん違うとは思いますが、社会で言えば、老人、高齢者が一番人が多いしまだ元気な人もいますから、例えば私の地域ですと、もうちよつと老人会を、学校で話し合いで計画的に管理をと多少そういうことを行っていますけれども、社会教育課の方も関係あると思いますので、今市長がおっしゃった、いわゆる子供は地域で育てるとよく言うんじゃないですか。そういうように多少道筋をつけてですね。

○市長（堀江隆臣君） そこはそうですね。おっしゃるとおりです。この前、修学旅行の誘致の協議会があって、関西の学校の先生とかがたくさん来られて、そこで色々と言われたことのひとつが頭に残っているんですけど、今、学校には不登校であったりとか、なかなか学校でうまく対処できないといったそういった子供に対しては、社会経験、世の中で働く厳しさとか仕事の厳しさとか、大人の社会の厳しさを一回教えてやるのが先決だというようなことを言われていて、職場体験とかではなく、社会経験を積みせればとおっしゃっていたのが頭に残っているんですけど、そういうのもおそらくうちの教育委員会でもやっていたとは思いますが、ただの体験とかじゃなくて、仕事の厳しさというのを早く教えて、初めて教育になるのではないかと言われていたのが頭に残っていたもので。

○教育委員（田中久美子君） 学校の方に色々出て行って、地域の方が色々指導したり、学校の方が来てくれと言われたりするんでどんどん行っているんですけど、でも地域行事には学校の方からは保護者も含めて、土日は部活もあり忙しいということで、大きな祭りは参加されるんですけど、地域の小さな行事にはなかなか参加してもらえない。だからみなさん、こっちには来てくれというけれども、向こうからは来てくれないというふうに言われることがあるんです。だからそういうことを見通して本当に地域の人たちとの関わり合いをとおして色々な経験ができるのではないかなと思います。

○市長（堀江隆臣君） そうですね。昔はよくそれぞれの地域には、家族でなくても近所のおじさんとかお婆さんとか色々な方が子供に教育して、色々厳しいことを言っていた時代がありましたよね。ああいうイメージがひとつはあるんです。なかなか学校からも指導が難しい生徒が、地元に戻ると本当にいい子だけという子が多かったですよ。だからそういった方たちの力を借りるのも手かなと思ったりします。

○教育委員（山下勝一君） 先ほど、将来、上天草市に帰ってきて活躍してくれる人たちを育てていきたいという話があって、まさしくそうだと思います。実は教育の部分だけではなくて、もっと大きな市の計画の中にそういう部分があって、雇用とか産業とかにつながっていきながら上天草市を愛し、例えば高校や大学を出て行くだろうけれども、それで勉強したりして社会経験を積んだ人たちが、やっぱり故郷上天草市に帰って、また自分で生活をしたいと思えるような上天草市をつくっていただきたいというのが第一の一番大きな基本かなと思うんですね。そうするとその中でたぶん、市の色々な施策があって、教育の中には上天草市を愛する心を育むというのがあるって、先ほど市長がおっしゃったような地域の支え合いだと

か色々な形で上天草市の良さをしっかりと身に付けていただいて、そういう子供さん方が帰ってきてまた次の上天草市を支えていける、そういう教育というものの方向性というものを是非考えていただくとありがたいかなというふうには思います。

○市長（堀江隆臣君） ありがとうございます。帰ってきてほしいですね。そこは思います。行政の立場からして、やっぱり次世代の担い手を育成していくというのが大変大きな仕事で、成績が優秀な子供がどんどん流出して出身地に帰ってくる傾向にないのが現状なんです。そういうのもやっぱり、学校を卒業してすぐではなくても、ある程度の年齢に達してからでも最後は地域に貢献していく気持ちが残っていればまた違った展望が出てくるのかなと思います。

○教育長（藤本敏明君） 今の市長の思いは大切にしていかなければならないなと感じたところ。私たちが今そういうことで色々な事業をやっている訳です。故郷を大切にする心を育む推進事業ということで、2年間かけてそれぞれの地域に残る自然とか文化とか歴史、こういうものを授業の中に取り込めないかなということ。今やっております。これは1冊の本になりますので、来年度からそれを使って授業をしようと、先生たちが一生懸命になってそれを作っています。ただ大変なのが、学校というのはカリキュラムが決まっていますので、それは全て全国の平均、都市部を中心に組まれていますので、その中にどう入れ込むかというのが大きな問題です。でもやらないと子供たちが将来、私たちが出て行ってもいいと、そのために英語力をつけようとイーフレンズもやっていますけれども、でも故郷を思って将来帰ってくるというのを考えながら色々な事業を作っているわけです。今後色々な意見を聞きながら、さらにそれをパワーアップさせていきたいと思っております。それと先ほどおっしゃいました社会体験という部分ももう少し考える必要があるなと思っておりますのでございます。

○市長（堀江隆臣君） 他はよろしいでしょうか。先ほどこの件については、28年度からまた第2次の教育振興基本計画を策定しないといけないということで、その中でそれに合わせて大綱も作るということにしたいと思っておりますが、イメージとしてはそんな形でよろしいですか。

○教育長（藤本敏明君） 私が教育長をしながら一番思うのは、市長は教育に対してどう考えていらっしゃるのかというのが非常に大事なんです。だからこの大綱、基本計画を作る時には、市長の考えをお聞きしながら作っていかないと、即ちそれは大綱になれるものになればいいなと思うところですね。作成するときには、必ず詰めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○市長（堀江隆臣君） そうおっしゃっていただければありがたいですが、とにかく、教育のことに首長が関れといっても、首長の権限で引っぱり回してもどうかなというところもありまして、これまでの基本方針みたいなものは引き続き受け継いでいきたいと思っております。それでさっきも申し上げたように、この総合教育会議の中で、各教育委員さんと密に意見交換をなさいたいことを言われていますので、そういったところでここで出ましたことは大綱なり教育振興基本計画の策定なりに反映させていきたいと思っております。一応そういった形で進めていきたいと思っております。

#### 4 協議事項（2）教育を行うための諸条件の整備、教育等に関する重点的施策について

○市長（堀江隆臣君） それでは協議事項の2に移りたいと思っておりますがよろしいでしょうか。教育を行うための諸条件の整備、教育等に関する重点的施策について意見交換をさせていただきます。ざっくりばらんで結構ですので、何か整備なり施策としてやっていきたいか、ご意見がありましたらお願いいたします。

○教育委員（山下勝一君） ではよろしいですか。市長がマニフェストを昨年作られましたが、先ほどの話とたぶん重なるところは多々あるかと思えますけれども、少しご説明をいただければと思いますのでお願いいたします。

○市長（堀江隆臣君） 教育の環境といいましてもかなり広義的な意味もありますので、なかなか一つ一つの説明は難しいですが、先ほど言いましたように、ひとつのイメージとしては、ソフト的な考えとしては、学校でなかなか足りない部分を誰が補うかという時に、やっぱりそこは地域じゃないかということはひとつあって考え方としては盛り込んだつもりです。もうひとつはハード整備ということになるんですけど、特に議会などでも言われている、学校へのエアコンの設置ですね。それとあとはいわゆる統廃合、学校の規模適正化をどのへんにおさめていくかということが主な考えかなと思っております。

まず学校の統廃合のことを私も話をしたいと思うんですけど、正直、当初つくられました学校規模の適正化計画は思ったほど進捗していないというのは事実で、最終的には地域の皆さん方、或いは保護者の方々の理解があった時点で統廃合になりますので、なかなかすり合わせができていない部分もあって、難しいこともあるんですけど、今、地方創生というキーワードで、重点戦略を作りなさいとなっているんですけども、その中のひとつに、小学校がなくなるとその地域が衰退するというのがひとつあって、学校を残しながら地域の活性化を作るのもありえるという考え方も実は示されてきているんです。ですから、なかなか相反する考え方が今我々にも突きつけられているというのがありまして、今までの学校統廃合を冷静に考えても、色々激論はあったにせよ、最後はやっぱり地域のみなさんとか保護者のみなさんが渋々でも理解をいただいた後でしか統廃合はできていないんですよ。だからそう考えると、非常に難しいエリアもあるなど実は感じています。本当はエアコンなどの整備も考えると、少しでも学校は少ない方がいいんですよ。

このエアコンもなかなか整備ができないのが現実があって、そういった意味では非常に難しい問題を抱えているんですけど、とにかく全部で7億円近くかかるので、全部をやるとするのは難しいと思っています。ただ、この前もちょっと話したんですけど、限定的にどこか、どのへんかの学年からでもできないかと検討していく必要があるのではないかと考えています。それともうひとつは、今合併して12年目に入んですけど、15年で合併特例債が終わるんですよ。合併特例債も考え方は色々ありますが、有利な起債であることは事実であるんですね。それでもうちの財政規模から考えると限界も実はあって、どこまで合併特例債に耐え得るかというのを冷静に分析して、それで教育委員会の方にどれだけ配分できるかというのを考えながら計算していかないといけないのじゃないかという気はしています。そこら辺はどうしても予算がかかる場所なので、ランニングもかなりかかるんですよ。全部で5千万円くらいかかるということでしたので。そういった意味では非常に難しく悩みどころだなと思っています。

あとはICTを活用したやり方ですよ。オープンスクールに行ったときも先生方と話したんですけど、タブレットなどを導入しているところもあって、一定の成果は出ているという報告もあったんですけど、あれもかなり時代でどんどん技術革新があって内容が変わってくるので、それをずっと追いかけて行くのは非常に難しいのではないかとというのが結論なんですよ。大型のモニターなりを使ってやればどうかということは、先生とこの前オープンスクールで話しましたよね。

○教育長（藤本敏明君） 私としてはですね、ICTでタブレットとか、電子黒板とか色々ありますが、非常に高価なんです。例えば登立小が何年前にタブレットを導入しましたが、もう機種が古いから替えてくれといっています。それで、先生たちが何が必要なのか、本当を言



うと、実物投影機、カメラで写してそれを投影する。

- 市長（堀江隆臣君） 投影機を言われたのかな。パワーポイントに使うやつですか。モニターがあればだいぶ違うんでしょう。
- 教育長（藤本敏明君） はい。あれはですね、この前文科省から来られた方の講義にもあったんですけども、昔はそれを言っていたんですが、もっともっと基本的な問題は、そういうのを各教室に揃えるのはお金がかかりますからね。ただそれを先生たちが個人で買っている状況なんです。ですからそれを揃えた方がより効率がいいのじゃないかと思うところです。そうしますと、先生たちも、あまりタブレットとかそういうのに縛られることなく授業ができますので、むしろそっちの方が効果があると思っています。天草市はそっちの方に変えたそうです。
- 市長（堀江隆臣君） それはこの前言われましたね。
- 教育長（藤本敏明君） はい、今までのパソコン教室、これもなくしてタブレットでやると。そのように天草市も変えるということでお聞きしていますので、お金が無いところはそっちの方向に行くのではないかと思います。それで充分ということです。
- 市長（堀江隆臣君） そうですね。あともうひとつはですね、教育長にはお話しするんですけど、地方の学校なので、都市部の学校と比べると、英語などがかなり弱いと先生方が言われるんですよ。それは実は私が中学や高校にいたころからずっと言われ続けていることなんです。例えば英語村の開設とか、今取り組んでいただいているんですけども、やっぱりそういう都市部に対して少し劣っているところを何らかのてこ入れをする方法は無いのかなというのがあって、英語村でやるのもいいし、独自で英語の都市部の学校に対して少し弱いところに支援の方法みたいなものが無いのかなと感じているところで、そういったところで環境を作っていくのかなと思っているんですけど。高校の先生も中学校の先生もそう言われたんですよ。オープンスクールに行ったら。
- 教育委員（山下勝一君） 英語は小さい時の耳だと思います。うちは保育園の時から民間の英語教室に週1回連れて行っていました。そしたら実際息子も娘も英語は得意です。だからやっぱり耳かなという気がします。今、小学校は授業が必須になったんでしょう。
- 教育長（藤本敏明君） 2020年に、5、6年生が必須になって、英語活動というのが3、4年生に下がります。
- 教育委員（山下勝一君） たぶんああいうのは勉強ではなかったと思うんですね。耳だけの問題だと思うので、そういう環境が、市長がおっしゃったように何かの形であれば、たぶんそこから興味を持って、小学校からでももっと興味を持ってやっていると、中学校でもスムーズにやっているとと思うんですね。
- 市長（堀江隆臣君） イーフレンズのティム先生ですか、保育園に行っておられるんでしょう。
- 教育長（藤本敏明君） はい、今保育園で引っ張りだこです。元々は社会教育の場面で設定したんですけども、あまりそこには需要はなかったので、自然と小さな子どもの方にいきました。
- 市長（堀江隆臣君） 小学校なんかはどうですか。
- 教育長（藤本敏明君） 今小学校はALTをもう一人雇って、その人が1年から4年までが何もなくて空いていますので、そこに行っています。それはカリキュラム外ですので。学校もよく苦勞して受け入れてくれたなと思うんですが、多いところで年間20何時間。少なくとも10時間程度。
- 教育委員（山下勝一君） そういう環境ができるというのはすごくいいですね。
- 教育長（藤本敏明君） それと英語の審議員もおりますので、中学校の英語の先生を研修でど

んどん鍛えています。たぶん、何年か先には上がるのかなと思っております。

○市長（堀江隆臣君） そうですね。明日から上がるということはないので、そこはもう少しある程度のスパンで考えないと。

○教育長（藤本敏明君） それで、それをもっと活用するという方法もあると思います。色々なアイデアを聞きながらいい方向に持っていければなと思っていますところですよ。

○教育委員（永野隆一君） 今回の市長の話には私も非常に賛成です。上天草市で特色のある教育は何かと、特色を出した方がいいですよ。今おっしゃった、都市に対して劣っているところについて特段に力を入れるというのがありますが、私は本当はプラスの方をもっと力を入れた方がいいと思います。上天草市は海にも山にも非常に恵まれていますけれども、自然体験が都会の子供に対してたくさんやっているかということ必ずしもそうではないと思います。マイナスのところは特段力を入れて、英語教育なんかは特段力を入れて外国人との交流もしますが、上天草市は自然に恵まれているのだから、もっと自然に接するチャンスを土曜学習で取り入れたらと思うんですね。その辺をもっと力を入れて、昨日の新聞で、天草青年の家に子供を連れて行ったと、あれは熊本市内の子供でしたね。上天草の子供じゃないですよ。ああいう説明などもどのくらい活用しているのか。それはここを出て、やっぱり帰ってきてもらいたいですよ、天草を出ると、向こうの人は自然のことをもっと知っていると思っていますよ。ですが意外と経験してなくてですよ。

○市長（堀江隆臣君） 今はそんなに外で遊ぶ機会が少ないんですかね。

○教育委員（田中久美子君） 海がそばにあっても、海で泳いでいる子は見かけないですよ。だんだん海も汚くなってきているというのがありますけど。だから都会から見ると海のそばだからいつも泳いでいるんだろう、だから上手だろうと思っていると、かえって都会の人が海水浴に来たりしますけれども、地元は体育の授業はもちろんプールですし、そういう感じになって、都会の人から見ると田舎の子のイメージというのは違うのかなと思います。

○教育委員（永野隆一君） 私どもが気をつけなくてはいけないのが、一例ですが、教良木では学校の先生もいっしょになってやりますが、10月くらいにからいもを植えて、当然正月から今ぐらいに雑草が生えますから雑草を取ってつる返しというのをしなくてはならないんですが、それで秋の収穫になるんですが、つる返しがいかに重要かということ学校のスケジュールにそういうのは入らないんですよ。だから自然に接する為にある程度もうちょっと観察をしてどういふことをそこで学ぶか、大人も子供ももうちょっときめ細かく足元からやっていかなくちゃならないと思っています。自然に対する観察はちょっと足りないと思いますね。

○市長（堀江隆臣君） 松島の学校あたりが、昔は千巖山に遠足に行っていたのに、今はアロマで終わりみたいな話を聞きます。そういう意味ではなかなか前みたいにはそういうことがないと思うんですね。それで、今天草地域全体がジオパークの認定を受けてやっていますが、あれも結局、4年に一度は再審査があって、取り消しという可能性あるんですけど、あのジオパークの認定のポイントは、ジオパークというのはジオサイトという天草の成り立ちの自然の景観とか、色々な遺跡みたいなのが点在しているじゃないですか。あれをどうやって、地域活動に反映させているか、若しくは教育の教材に利用してあるとか、学校の中で天草の歴史の成り立ちをジオサイトを利用して取り組んでいるとか、そういうのがポイントになるんですよ。そういった意味では、ジオパーク関係についてはうちは観光おもてなし課がやっているんですけど、彼らも本当はもうちょっと天草の自然が教育の方の教材として利用できないかとかPRしていいんですけど、たぶんあまりそういう話はきていないと思いますね。私としては天草の

歴史とか、成り立ちとか、切り口になるというのは、何かの機会にカリキュラムに取り組んでいただいているのじゃないかという気はするんですけど。

○教育長（藤本敏明君） それを学校の先生方が今取り組んでいまして、現在その資料を作りをやっているんですけど、それをカリキュラムのどこで使うかという、ここが一番のネックですね。それで、先生方は総合学習の中でそれをやろうというカリキュラムを作ってその資料集めをしたり、また、色々な歴史とかそういうのは資料集を作って、先生たちが活用できるようにしよう。まあどこで使うかというのが一番のネックですね。

○教育委員（山下勝一君） すみません、先程のマニフェストの話に戻りますけど、エアコンについてランニングコストが5千万円とかいう話があったんですけど、この間、姫戸中学校の授業を土曜日に観に行っただけなんですけど、校舎は私たちがいた時代の校舎で、まず2階、3階に上がったら、廊下のところのガラスは全部取ってありました。それで窓は開けっ放しでそこに扇風機を回してあったんですけど、その日は暑い日だったので、それでも教室が異常に暑かったです。それで、実際に生徒たちが授業をしているのは、1年、2年、3年の3組で、教室は3つしか使っていないんですよ。だからさっきちょっとおっしゃったように、必要最小限度、不可欠な部署、部分でというのも、もし対象になるのであればできないのかなと思ったんですよ。電気代も、今の空調系は実はものすごく節約型になっていると思います。うちの施設も昨年20年前のものを全館やりかえたんですが、電気代は思ったほど上がらなかったというのが現実なので、たぶん、使う設定とか、そういうのを厳しくすれば、そんなに入れる機会もないと思うので、もしよければ、こんな暑いのにというくらい暑かったので、できるところからでもできればと思うんですが。

○市長（堀江隆臣君） エアコンの積算根拠は教室の数で出しているんですか。

○学務課長（宇藤竜一君） 全教室で計算しています。

○市長（堀江隆臣君） 利用している教室を全部拾ってですか、それはいつの数字ですか。

○教育部長（舛本伸弘君） 23年くらいだと思います。

○市長（堀江隆臣君） 教室ごとにひとつずつ付けてということですか。

○学務課長（宇藤竜一君） 今ある学校の全ての教室に付けると計算した時ですね。

○教育委員（山下勝一君） しかもですね、1階と3階では全然違います。

○教育長（藤本敏明君） 上は暑いですよ。

○市長（堀江隆臣君） 県庁なんか28度に設定してあるけど、会議にならないんですよ。

○教育委員（山下勝一君） 28度ではなかなかですね。ですけど、子供たちが、ある程度の軽装の中で集中して勉強できるくらいの温度じゃないと、あれではとてもじゃないけど、結構厳しいかなと現実のこととして思ったので、必要最小限度だけで考えるというちょっとそういう検討もあってもいいんじゃないかなと思いました。

○教育委員（永野隆一君） よろしいですか。

○市長（堀江隆臣君） どうぞ。

○教育委員（永野隆一君） ちょっとここで申し上げるのはあまり適当な議題ではないと思うんですが、ただ上天草市の全体の教育のことを考えた場合に、上天草高校の魅力をどうするかというこれ抜きでは考えられないですね。もちろんここだけで議論できる話ではないと思いますし、今高校も一生懸命やっておられますが、これは市全体として重要な問題だと思いますけど。

○市長（堀江隆臣君） そうですね。この前、上天草高校の学校支援の会議があつて行ってきた

んですけど、あそこも200人の定員に対して入学者が90人なんですよね。さすがに200人は時代として難しいかと思うんですけど、140人くらいを目標にとにかく先生たちも頑張るとおっしゃっていたんですけど、学科によっては、特に福祉科は非常に厳しくてですね、今はそういう状況なんですけど、やっぱり地元の学校なので、どうしたら地元の高校に行くかということを見ると、小中との連携をどうやって地元の高校が取るかというのがひとつかなと思います。小中高で連携でやれることがあれば、継続して地元の高校に行こうかという意見があったりしまして、行政としても上天草高校に地元から通ってほしいということで色々支援案を作ってはいるんですけど、結果としてなかなか結びついていないということがあって、そこは改めて来年に向けて考え直しましょうということで今協議をやっているところなんです。決して金銭面だけで支援があっても地元の学校が魅力ある学校になるということではないなと感じているんですよ。そこらへんは、あそこは県立高校なんですけど、どうやって小中高とどうやって連携するかを考えてみてくださいということを先生には言ったところです。特に大矢野からが減っているんですよ。数字を見ると、大矢野中学校からの方がかなり減っているんですよ。だから積極的に学校訪問に、説明会に来てくださいというのは要望があっていて、そういうことは言われました。

○教育委員（永野隆一君） おっしゃったとおりで、私は教良木だったこともあり、松商の存続運動を、それは無理だと分かっているけどかなりやりましたけれども、県も松商のDNAを上天草高校に残すからということで、かなり学校の先生の配置なんかも配慮してもらっています。ですが実際上天草高校で、情報処理科というんですか、あれには3町側が圧倒的で大矢野からは来ないようで、なかなか難しいですね。そういうこともありますし、ただ福祉科は数名でやっていますし、一方で看護学校と制度上は違うかもしれませんが、看護学校を市で持っているじゃありませんか。あれだけ今度設備を良くされるということがありますが、あそこの地元就職率は必ずしも高くなかったと思います。

○市長（堀江隆臣君） 今はいいです。その辺に関しては。

上天草高校の方も国立大学の入学者も決して悪くないですよ。やっぱりどうしても優秀な生徒はどちらかという外に出て行くし、その中で残った生徒なんですけど、それでも、当時の評価よりはずいぶん上がった生徒がいるので、それをPRしてはどうかと言われるんですけど、最初はあまり良くなかったというのも学校としては言えないんですよということがあって、そのPRはちょっと難しいということでした。

○教育長（藤本敏明君） いいですか。私が平成16年に大矢野中学校の校長になったときは、全校生徒が550人いました。それで今350人なんですけど、毎年上天草高校に行く子供たちは4割程度でこれは不思議と変わっていません。そうすると必然的に総数としては減ってくるんですね。

○市長（堀江隆臣君） 生徒の数が減った分だけそのために相対的に減っているということですか。

○教育長（藤本敏明君） はい。大矢野地区が減ったというよりもそういうことで減っている。4割は変わっていないです。それで何が問題かということ、進路は子供と保護者が選ぶということなんです。学校が上天草高校に行きなさいということは言えないんです。もしも言ってそこで子供が失敗したならば大変なことになりますので、データは出しますけれども、ここに行きなさい、あそこに行きなさいという、この選択は必ず個人が選ぶということです。それで私も今の校長先生にお願いしたのは、市長さんと全く同じです。出かけて行って、この学校はいいよ、この学校のお兄さんお姉さんはいいよというのを小さいうちから心に刻ませ

たほうがいいのじゃないですかということで、今一生懸命それをされています。でもなかなか解決されないというのが現状ですね。私たちも地元に行って子供たちをと思うんですけど、なかなか難しい問題ですね。

○市長（堀江隆臣君） あと、図書館のことをお話ししたいと思うんですけど、図書館も大型施設として計画されていたんですけど、実は見直しをして、今のところ白紙状態ということになっているんですけど、先程もちよっと触れたんですが、これは教育だけの話じゃなくて、今合併して11年が過ぎて12年目に入っています。11年目から15年までの5年をかけて、いわゆる地方交付税といううちの歳入の中では一番大きい国からの交付税というのがあるんですけど、それがこの5年でどんどん削減されていって16年目からは1本算定といわれる、本来の自治体に対する交付税の措置が行われることになるので、今その激減緩和の期間に入っているんです。それでしばらくは歳入歳出の予算の総額を減らしていく期間に入っております、その中でもいわゆる公債費、借金の割合をある程度維持しながらいけると言われている時期に来ているんですよ。非常に厳しい財政計画の中であって、それでも財政調整基金というちょっと貯金しておいて緊急の場合に使うお金があるんですけど、実はそれを取り崩さないと予算を組めなかったというのが現状なんですよ。本来はそういった基金は緊急的な措置なので、災害があった場合とかそういうときに取り崩して使うということになっているんですけども、現状としてはそうせざるを得ないくらい歳出に回すお金がなかったというのが現状なんですね。ただ、図書館そのものの施設というのは、特に大矢野の森記念図書館というのは不便なところにあるし、もっと便利な施設であってほしいという声も聞きますし、何らかの形をとはずっと言われていまして、代替案としてどんな形がいいのかというのは社会教育課と協議をしているところです。基金そのものは3億6千万円はありますので、その範囲内でやれる計画をというふうには今考えています。やはり、学校の跡地をという声もあったりしますし、それも一つの案としてあるんですけども、また一方では利便性というのものもあるし、上天草市も橋で繋がっている自治体なので、広範囲であるし、アロマと姫戸支所、龍ヶ岳支所にもあってなかなか維持管理費も結構かかるんですよ。それでも何らかの形で整備計画というか、図書館のあり方も考えなくてはならないと思っているんですけど、最終的に決めた結論はまだ出せない状況なんです。それでどんな形がいいのかご意見をお伺いしたいなというのが実はあって、老人福祉センターも実はかなり老朽化しているんですよ。それであそこに併設したらどうかという意見もありますし、あとはターゲットをどこに絞るかと言われているんですよ。子供に対して図書館の充実をというなら学校の図書館を充実させた方がいいんじゃないかという意見も出ますし、一般の方がというならば、一般の方は図書館というのがほんとに必要なのかという意見もあったりして、保護者からは図書館を整備してほしいとやっぱり言われるんですよ。特に大矢野の方からは。

○教育委員（永野隆一君） 大矢野の方には聞きたいくらいですよ。よくあの森慈秀記念図書館で今までやってきましたねと。どういう考え方ですかとむしろ聞きたいくらいという感じがします。

○市長（堀江隆臣君） せめて、アロマくらいの図書館があればいいなと思うんですけどね。

○教育長（藤本敏明君） 図書館ですけど、やっぱりコミュニティの場とじゃないとかなかなか人が寄らないと思うんです。そういうのをするとすぐお金がかさむし、私たちも行政でするので痛し痒しですけども、やっぱり人が集まるということで、例えば合志市なんかはお母さんたちが行くように、ヴィーブルですか、あそこには体育館があり、子育てのところが

ありと色々としてありますので、そこに人々が集まって図書館にも行く。あそこが1人当たりの貸し出し数が1番だったです。

○市長（堀江隆臣君） 教育部門もやっぱり、中地区がまだ学校統廃合としての可能性を残していますので、維和も入るかどうかは別として、仮に維和が入らなくても先行して中地区で統合するとなった場合は、学校施設にもかなり投資が出てくるんですよ。そう考えるとそれだけでも何億円も必要だし、図書館もお金がかかる、エアコンもお金がかかるとなれば、なかなか教育委員会だけに色々な投資をするというのは全体として難しくなってきますので、ではどこに優先して投資すべきかということのを少し考えていただければそこに対して先に投資するというのはひとつの手だと思います。例えばエアコンがどうしても必要だということであればそれを先に投資するとかですね。そんな考え方でもいくしか、なかなか現実として厳しいなというのがあります。今年の当初予算でも、道路の維持管理などは全部で20億円くらいの要望があがっているんですけど、予算として組めたのは1千万円くらいなんですよ。そのくらい一般の投資的経費に回せるお金というのは厳しくなっています。普通建設事業などは、割と国の経済対策などで補正が出て、それで穴埋めはしていたんですけども、今年の3月の補正などは、そういうハード整備に対するものは一切なかったんです。やっぱり国も2020年までにプライマリーバランスを達成しなさいという国際公約があるじゃないですか。それに対して税収も伸びているので、国債を発行するのをかなりひかえているんですよ。だからハード整備に回せるお金が少なくて非常に我々としても困っているんですが、そういう事も考えるとなかなか今大きな投資ができる状況ではないというのが結論だったんですよ。ただ議会でも使わないといけなところには使わないといけなところを結構言われたりしますし、それでいけば、あと3年、4年後の将来像を残しながら合併特例債を活用して投資すべき部分がどこにあるのかを決めていかなければならないです。

○教育委員（古川佐奈江君） うまく言えるかわからないんですけど、初めて私が大矢野に来た時に感じたことなんですが、まず街灯が少ない。夜になると海が真っ暗になるので、家も少なく、街灯もなく、夜道を散歩しようにもすごく不安だったんです。私は図書館にはよく足を運んでいたんでこちらの街に来た時にもすぐに図書館に行きました。でもベビーカーを押して行けない図書館というのを初めて見ました。お金が無い町、財政的に厳しいのは分かっているので、こういう図書館を作ってほしいというのが白紙に戻るのは分かるんですが、そういう公共の施設というのは、その市がどういう考えを持っているのかという現れだと思うんですね。この図書館を作るときに、誰のことを考えて図書館を作ったのかなと思いました。大きいとか、小さいとか、その規模の前に、どういう考えを持ってその施設を作ったのか。また、公園が少ないというのも感じたところでした。どこに親子で走り回って遊びに行くのか、今、外を走り回る子供がいなくなったとありましたけれども、海水浴をする場所が、海は周りであっても泳いではいけないところがたくさんあって、子供たち自身がどこで泳いでいるのか、自転車でだいぶ遠くの海水浴場まで行っているんですね。目の前に海はあるけど、泳いではいけないというところがたくさんある中で、子供たちがのびのびと住みたい街と思うかどうか。さっき高校の魅力をどうしたらというのもありましたが、その前に魅力ある街であるかということに、その高校も加わってくるんだと私は思うんです。その予算が厳しい中に、市長が、この上天草市をどのような市にしたいか、誰のための市にしたいか、先程図書館の会議で誰をターゲットにするかとかありましたけれども、図書館は公共の施設なので、子供も大人もお年寄りの方も、また車いすの方もみんなが利用できる場所が前提となると思います。車いすの人も行けるように、そして雨の時、車いすの人も行きやす

いような、それには費用がかかるかもしれませんが、どんな街にしたいのか、その現れとして図書館について考えてもらいたいと思います。エアコンについても、子供たちにどのような教育を提供したいのか、タブレットのこととかICTとか色々ありましたけれども、どんな教育環境を子供に作っていききたいのか、まず公園が無かったり街灯が無かったり、誰もが行けない図書館だったりというのは、天草という名前にもったいないと思います。天草というのはたくさんの方が結構知っていますので。私が住んでいたところは佐賀県の鳥栖市というところですけど、鳥栖って聞いたことがあるかなというくらいで、インターがあるので車に乗る人は知っていますけど、天草といたら、関東や東北の方でも北海道の方でも知っているんですね。キラキラしたイメージ、昔し話に出てきそうな、おとぎ話のようなきれいな街のイメージがあったりとか、魚がおいしい、景色がいい、そういう良いイメージが定着している天草なのにもったいないなど、天草をもっと活かして住みやすい街をつくりたいと、どのような街をつくりたいのかというのを、マニフェストのような固い言葉じゃなくて市長の思いがその市のあり方に現れると思うので、どのような街にしたいのかということが一番前提として優先順位がエアコンなのか老人福祉センターなのか、たくさんあると思いますけれども、どんな街にしたいのかという夢というか、夢は目標でもあるので、夢が無いとどこに進んでいいのか、どんな目標を持つのか、目標というのは同じだと思うので、どんな街にしたいのかというところをしっかりと押さえて、図書館についても教育についてもこれから考えてもらえればなと思います。どんなですか。

○市長（堀江隆臣君） おっしゃることはよくわかります。私もそういうふうにしたいとは思っているんですけども、現実的にどういうふうな方針を打ち出していくかを決めないといけなないので、事実を語ったままでんですね。やっぱり教育委員さんとして、色々な要望も確かにこうしていただきたいという希望はあっても、それを捌いて行くのが行政の本来の仕事なので、ここは包み隠さず教育委員さんにもとにかく伝えておきたいと思ってですね。やっぱり確かに子供に対して優しい地域であってほしいと思いますし、できるだけ支援はしたいし、それはいいものができれば私もいちばんいいと思っているんですけど、やっぱり財政的なこともあるし、合併した自治体なので、エリアがかなり広くて、その辺のバランスの取り方もあるし、後は確かに既存の施設をどうやって有効に利用していくかというのもひとつの大きな課題なんですね。公園も確かにうまく充実したものをつくればいいですけども、公園をつくるというのも非常に難しいですし、そういった部分を全部ひっくるめてどういったソフト的な事業ができるかということもやっていくのかなと思っています。ハード整備については今の時点ではなかなかやりますというのとも言えない部分があって、調整をしているところもたくさんあるんですけど、やれるだけとにかくがんばります。

○教育委員（山下勝一君） さっきの老人福祉センターですが、やっぱり市がつくらないといけないんですか。

○市長（堀江隆臣君） というと、どういうことですか。

○教育委員（山下勝一君） 老人福祉センターに図書館もという話があったので、老人福祉センターに図書館もくっつけて、子供も寄れるような場所を作った方がいいねとさっきから思っていたんですが、位置条件的には宮津のあそこですよ。位置的にはいいと思うんですね。それだと乗っていけるのかなと感じたんですけど。

○市長（堀江隆臣君） 老人福祉センターも完全に具体化しているわけじゃないんです。ただ、老朽化してきているので、いつかはそういう時期が来るというレベルではあるんですね。

○教育長（藤本敏明君） 以前それで私たちも社会教育課で試算したら20数億円かかるとい

うことでした。

○市長（堀江隆臣君） 何がですか。

○教育長（藤本敏明君） 老人福祉センターといっしょに建設した場合ですね。

○市長（堀江隆臣君） あとは規模の問題ですよ。

○教育委員（山下勝一君） 老人福祉センターを作るのにはどこか別のところから補助金とか持って来れないのかなと思ったものですから、もしそういうのがあればそれに乗っかって、身の丈に合った規模でできたらいいなと感じたところです。

○教育委員（田中久美子君） 老人福祉センターがいつかはというのはどのくらい先のことなんでしょうか。

○市長（堀江隆臣君） 詳しくはまだ聞いていないんですが、総合計画に載っていましたか。

○教育部長（舛本伸弘君） 総合計画にはまだ載っていません。

○教育委員（田中久美子君） ある程度見通せる先だったらいっしょにというのも考えられますが、全くそれ自体は動いていないんですね。

○市長（堀江隆臣君） 私も全部の図書館に行きましたが、大矢野は確かに古いのは古いですよ。

○教育委員（永野隆一君） 市長すみません、上天草市の教育に関して大変厳しい話になりますが、今日、学力の資料を作っていただいたんですが、これは8項目ありますが、上天草がかろうじて県の平均を上回っているのは、小学校の算数Aだけで他は全部下回っているんですね。市長はご存知だと思いますが、上天草市の子供たちの学力は残念ながら県、国より下回っておりますので、これは学力が一番ベースでございますので、今回市長は制度上も実質上も教育の最高責任者となられましたので、教育行政については格段の配慮をお願いしたいと思っておりますけれども、現実を見ますとなかなか厳しいものがありまして、もちろんこれは私たちももっとやらなければならないことがありますからやりますが、数字を見ると今こんな感じなんですよ。

○市長（堀江隆臣君） これは毎年同じ傾向ですか。

○教育長（藤本敏明君） 少しは良くなってきている傾向です。前はまだ悪かったですね。Aというのが基礎問題なんです。Bというのが活用問題です。それで算数の基礎だけはどうにかこうにかいいんだけども活用になるとなかなか難しい。国語になるとどっちもいけないということです。先程言いましたけれども、私もずっとこれが頭にあるわけですし、これをどうにかしなければいけないなと思っているところです。

○市長（堀江隆臣君） 国、県との平均よりはだいたい毎年下回るということですか。

○教育長（藤本敏明君） そうですね。

○教育委員（田中久美子君） すみません、この最高最低というのは個人のものですか。

○教育長（藤本敏明君） いいえ学校のです。

○教育委員（田中久美子君） この最低の学校の国語Bというのは飛び離れて低いですが。

○教育委員（山下勝一君） これは異常値ではないんですか。極端に児童が少ないところとか。

○教育委員（永野隆一君） 色々な要素がありますから単純にはいきませんよね。家庭環境もありますし。教職員の県全体の異動の実態とかもありますし。なかなか簡単な問題ではないですよ。ただ、向上するように頑張らなくてはいけないと思いますが。

○教育長（藤本敏明君） せっかく出たので申し上げますけれども、結局上天草市の教員の配置については非常に不利なところがあります。特に若い先生たちが多い。天草自体が天草の



出身の先生が少ないので、他郡市から来られた方が天草には多い。しかし他郡市から来られた先生たちはやっぱり自分のところに帰ろうとするので、若いうちに来て帰るケースが多い。私たちは一生懸命養成するんですけども、ある程度上手になられたら帰っていくという状況があって非常に不利な場所です。このことは何を意味するかというと、二極化しているということです。成績が良い子供たちとそうでない子供たちの二極化をしている傾向があるということです。それで、成績の低い子供たちをいかに救うかというのを今考えているわけでございます。おかげを持って、特に特別な支援を必要とする子供たちに対しては、23人の補助員をつけていただいています。でも今、特別支援に該当するような子は7.6パーセントいます。だから100人いれば、7、8人はいるだろうと。だから特別支援はひとりか二人ですので、残された子供たちは教室にいるんです。その子供たちをどう手厚く教育をするかというのが課題でございまして、上天草市には教員免許を持った人たちが少ないんです。天草市の方は本渡の付近に多いので、補助員といっても免許を持った先生が来るんです。免許を持った先生は指導ができますけれども、単なる補助員は指導ができない、この差が非常に大きいです。ですからその指導のできる先生たちを増やすとこの辺はもう少しアップするのかなと思います。といいますのが、天草市は県の中でもいい方なんです。そこの足を引っ張っているのが上天草市なんです。これをどうするかというのは喫緊の問題だと思います。これが先程言いました、ずっと頭にあるという、頭から離れない問題です。これをどうかしなくしてはいけないなというのがあります。

- 市長（堀江隆臣君） これが一番大きな問題ではないですか。
- 教育長（藤本敏明君） 大きな問題です。未だかつて言ったことは無かったんですけど。
- 市長（堀江隆臣君） ここをどういうふうにしていくかが一番大きな課題だと思いますけどね。
- 教育長（藤本敏明君） だから大矢野中学校の問題も、子供の教育を投げていると言われますけれども、そうではなくてそういう子供たちの学力をあげてやるということが本当の大きな問題かなと思います。今後はそういうところに頑張っていかなければならないなと思っております。
- 市長（堀江隆臣君） これは全児童、全生徒受けての平均値ですか。受けない子もたまにはいたりとかしますか。
- 教育長（藤本敏明君） 受けない子もたまにはいますけれども、こういうときは不思議と受けに来るんです。
- 教育委員（永野隆一君） ではこれはほとんど100パーセントなんですね。
- 教育長（藤本敏明君） ほとんど受けに来ます。
- 教育委員（田中久美子君） 言い方を変えれば不登校とかであまり授業を受けていない子とかも受けにくるんですか。
- 教育長（藤本敏明君） 受けることがありますね。
- 教育委員（山下勝一君） それはもう一番大きな課題ですよ。そういう子供たちをどうにかして救っていくというか、方法というのが何か無いのかなと。
- 教育長（藤本敏明君） だから今、教職員の中に経験が少ない先生方が多いのでそこをどうにかしてアップしたいということで、1人につき年間3回、指導員、又は指導主事、審議員がずっと授業を回っていくんですよ。
- 教育委員（古川佐奈江君） 先程図書館のことを言いましたけれども、川端市長が図書館をつくりたいと言われたときに結構反対意見があったのに驚いたんですね。国語の力も弱いんでしょう。読む力、書く力。大人も本を読まないのに、子供が本を読むわけがないと私は思いました。

た。図書館がこういうふうで、教育に対して積極的ではないのに、子供たちの学力が上がらないのは当たり前だと私は感じました。先生たちの指導力によって子供たちの学力をつける事もできると思いますけれども、私たち大人自身が教育や文化面に対してどんな意識を持っているのかというのも子供に大きく影響していると思います。だからそういう意味で、財政難ではあるけれども、市自らがそういう教育的なものに対して意識を高く持つことを大人がまず子供に示してほしいなと思うところです。

○教育委員（山下勝一君） たぶんですね、合併前に姫戸も町に図書館がなかったんです。龍ヶ岳はどうですか。

○教育委員（田中久美子君） 龍ヶ岳は小さかったけどありました。

○教育委員（山下勝一君） 松島もあつたんですね。姫戸はなかったんですよ。それで、私たちが子供の時に図書館という部分が、元々から私は姫戸なんですが、姫戸にいるときに図書館というイメージがなかったんですよ。だからそこは、勉強の色々な部分があるでしょうけれども、たぶん文化というものがあると思います。かといって私は国語は苦手だったけれども、勉強は別に苦手じゃなかったです。図書館が即勉強ではなくて、図書館も非常に大きな文化のひとつであって、おっしゃることはわかるんですが、例えばうちの父などが図書館の建設に反対していたのは、それはもう予算額ですよ。反対の一番の問題は。もう予算額を聞いて、そういう予算があれば違うんじゃないかというのが前の市長の時の図書館計画の基本だったと思います。なので、私は身の丈に合った図書館というのは是非必要だとは思っているんですけど、図書館という文化はどうもそこを言われるとなかったよねと思ってしまうところは実際現実的にあります。

○教育委員（永野隆一君） そういうところをたどると、さみしい話があるじゃないですか。じゃあ上天草市合併の前に松島以外に町史を作っているところはどこにありますかという話しになるんですね、そういう話になると。だから現実はかなり厳しいです。あらためてやっぱりちゃんと考えてやらなきゃいけないですね。

○教育長（藤本敏明君） ここに対しては色々施策を打ちますので市長、よろしく願いいたします。

○市長（堀江隆臣君） だからどういう、人的支援が必要ということですか、色々ありますけれども。

○教育長（藤本敏明君） 人的支援、指導できる人たち、教員を指導する人たち。今うちの指導主事あたりも目いっぱい動いていますので。

○市長（堀江隆臣君） この学力の結果というのは毎年出るわけでしょう。

○教育長（藤本敏明君） これは毎年出ます。今年は8月27日に出ます。中学校が悪いのは小学校からの繋がりです。

○教育委員（山下勝一君） すみません、これは、点数が体力もありますが、体力は問題はないんでしょう。

○教育委員（古川佐奈江君） 体力も落ちていきます。スクールバスも増えていますし。

○教育長（藤本敏明君） そうですね。スクールバスだと体力はすぐに落ちます。

○市長（堀江隆臣君） スクールバスも統廃合の条件だったりしますので、近くても行ったりする子がいるんでしょう。そういう弊害もあるんでしょうが、なかなか統廃合の条件ということで難しいとは聞いています。

○教育長（藤本敏明君） そうですね。

○教育委員（山下勝一君） 天草のこの環境で、体力が低下してきているというのは少しさみし

いなという思いはありますね。

○教育委員（永野隆一君） 大矢野中学校はなにかと話題になりますけれども、教育長ちよつと市長に説明してください。郡市中体連の成績を。すごいですよね。

○教育長（藤本敏明君） 大矢野中学校というところは非常にエネルギッシュなところで、そのエネルギーがどっちに向いて行くかで色々な問題があつて、浮き沈みが激しいんですけども、そのエネルギーがひとつの方向を向いた時にはものすごい力を子供たちが出します。だから今いい方向にいつているからこういう成績になるんです。

○教育委員（永野隆一君） 今の小学校中学校はオリンピック世代じゃないですか。オリンピック世代の青少年ですからやっぱりスポーツが盛んになりますよね。スポーツで実績を上げてくると追い風になって非常にいい方向にいくと思いますね。

○市長（堀江隆臣君） では協議事項2について他には何かないでしょうか。よろしいですか。とにかく今日は第1回目ということでございますので、また総合教育会議を開催しながらみなさんとの意見交換をしていきたいと思つますのでよろしくお願ひいたします。では協議事項についてはこれで終わりたいと思つます。

## 5 閉会

○市長（堀江隆臣君） それではこれを持ちまして第1回の上天草市総合教育会議を閉じたいと思つます。みなさんお疲れさまでした。